



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



3月 2024

I S S U E # 4 1



IRPA16組織委員会のメンバーは、**IRPA16**サイエンティフィック・プログラムの準備のため、オランダで会合を開いた。

今号では

- 会長のブログ - 2
- モントリオール基金 - 4
- IRPA16 : IRPA16組織委員会委員長KEVIN NELSON氏へのインタビュー - 5
- 加盟学会情報 : エジプト - 7
- 今後のイベント - 9

翻訳: 布宮 智也、編集: 藤通 有希、監修: 佐々木 道也

この”IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Tomoya Nunomiya, edited by Yuki Fujimichi and reviewed by Michiya Sasaki.

This Japanese translation of ”IRPA Bulletin” is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

会長のブログ

DR.BERNARD LE GUEN

IRPA会長ブログの今回は、3つの最新トピックについて触れたいと思います。1つ目のトピックは、あと数ヶ月で開催されるIRPA16大会の事です。開催を非常に楽しみにしています。

2月のこととなりますが、私はオランダで開催されたIRPA16組織委員会に参加しました。この会議はRenate Czarwinskiが議長を務め、米国保健物理学会(HPS)のCharles Wilsonが非常に効果的な手助けをしてくれました。

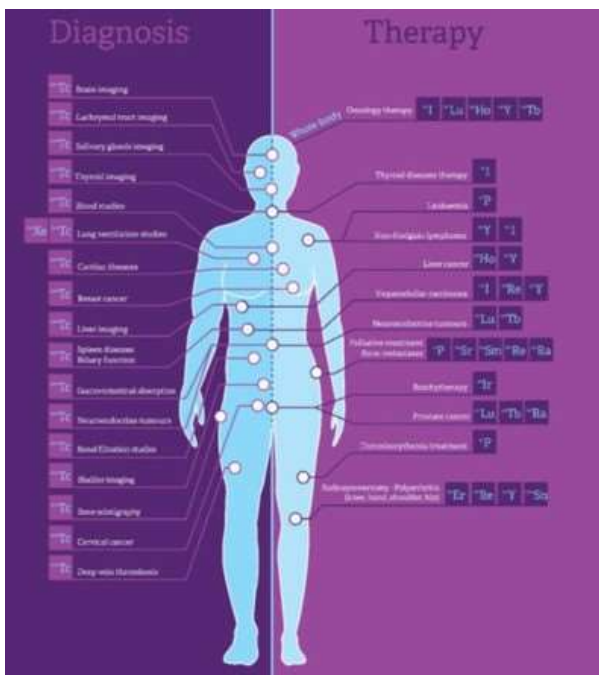
午前中はパネルディスカッションと口頭発表が交互に行われる素晴らしいプログラムが準備されていました。特に注目したいのは、大会初日に行われる、次のICRP勧告に関する2つのプレナリーパネルです。

最初のパネルディスカッションでは、電離放射線と非電離放射線に対する現在の2つの防護体系について両者を比較する形で議論が行われました。

また、放射線防護の教育、訓練、技能の育成に関する全体パネルにも注目です。放射線防護の将来にとって最優先事項は、若い才能、科学者、技術者をこの分野に引きつけることです。これは私たちの将来にとって重要なポイントです。そこで私たちはIRPA若手世代ネットワーク (YGN) と共に、"次世代の放射線防護専門家の発掘"をテーマとしたワールド・カフェを開催することにしました。このエキサイティングなイベントに、皆さん是非ご参加ください。そして、若手専門家の話題では、他にも素晴らしいニュースがあります。放射線防護2024のIRPA16若手専門家大賞に14名の推薦がありました。最高の若手専門家の受賞を期待します。



2つ目のトピックとして、私は最近、ブリュッセルで開催された欧州における診断用および治療用放射性同位元素の使用に関するワークショップ「欧州のすべての患者における放射性医薬品へのアクセスの確保」に参加することができました。ヨーロッパでは、IAEAの「Rays of Hope」事業のような、放射性同位元素を使用した「がん撲滅」計画が発足しています。これは、診断と治療の両方に利用可能な、異なる α 線と β 線を放出する放射性同位元素に依存する"セラノスティクス"の真の革命であり、Lu-177はこの扉を開いた最初の放射性同位元素のひとつになります。これらの製品に対する需要は増加の一途をたどっており、現在の生産量に限界があることが入手性の面で大きな制約となっています。世界中で226基の原子炉が稼働していますが、放射性同位元素の生産に使用されているのは81基のみで、そのうちヨーロッパ（ポーランド、オランダ、ベルギー、ドイツ、フランス、チェコ共和国、ハンガリー）にあるのは7基で



会長のブログ

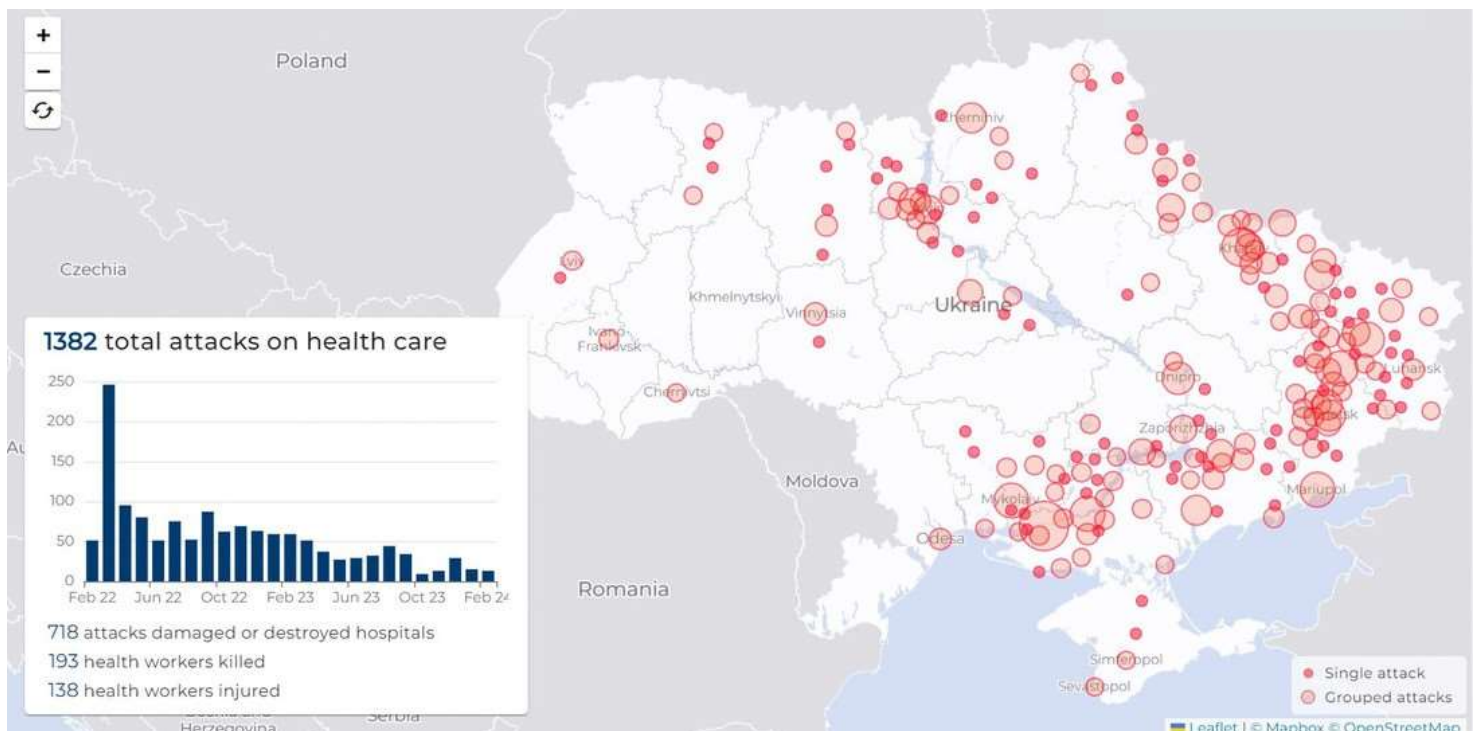
DR.BERNARD LE GUEN

す。この原子炉使用量の内訳は、今日の一般市民における放射線の使用をよく表しています。ヨーロッパで利用可能な研究用原子炉は非常に古いため、将来を見据えて計画を立て、このセラノスティクスの需要の高まりに対応することが重要です。

最後に3つ目として、このブログの場を借りて、あまり公表されていない関心事をお伝えしたいと思います。毎年全加盟国の代表が集まる経済協力開発機構（OECD）原子力機関（NEA）の放射線防護・公衆衛生委員会（CRPPH）に参加することができました。さまざまな議題が議論された中で、ウクライナ国家原子力規制検査局（SNRIU）は、同国の放射線防護の優先事項に関するライブアラートを実施しました。

原子力施設、特にザポリージャ原子力発電所の安全性については依然として警戒が必要ですが、もうひとつ心配な問題が浮上しています。ウクライナ全土に2万9700個近い放射性物質が存在し、そのほとんどが病院や医療施設にあります。現在までに700以上の医療施設が破壊され、管理は事実上行われていません。これらの密封放射線源の消失や紛失による放射線事故の被害が現実のものとなっています。これらの線源の所在を検証し、安全を確保することは依然として困難です。

このテーマについてはほとんど語られていませんが、放射線防護の医療専門家は、紛失した線源によって引き起こされた放射線事故や、フランスで放射線熱傷の治療を受けた患者の画像を記憶しています。ウクライナの安全を確保するために、破壊された建物からすべての線源を取り出す努力をしなければなりません。



ウクライナの病院襲撃の地図



モントリオール基金

モントリオール基金は、1992年にカナダのモントリオールで開催されたIRPA-8国際大会の収益金をもとに、カナダ放射線防護学会によって1995年に創設されました。IRPAは、IRPA国際大会に参加する学生や若い専門家、できれば発展途上国やIRPAの関連学会を持たない国々からの参加を支援することで、世界の放射線防護を強化するために不可欠なプログラムです。対象者は、モントリオール基金委員会の規約に従って選ばれます。

モントリオール基金は、関連学会やその他のステークホルダーからの寄付によって支えられています。2023年には、以下の関連学会から基金に寄付を頂きました。IRPAは、この寛大なご支援に深く感謝いたします。

- 英国放射線防護学会 (SRP)
- オーストラリア放射線防護学会 (ARPS)
- イタリア放射線防護学会 (Associazione Italiana di Radioprotezione, AIRP)
- オランダ放射線防護学会 (Nederlandse Vereniging voor Stralingshygiëne, NVS)
- 北欧放射線防護学会 (NSFS)

英国および北欧の両学会は、モントリオール基金に対し、2,500ポンド（英国）および500ユーロ（北欧）の年間寄付の誓約を行いました。IRPAは、他の関連学会に対しても、できる限りモントリオール基金への年間寄付を行うよう要請致します。

モントリオール基金は、2022年のIRPA地域大会において19人の参加者に約13,520米ドルの支援を提供しました。この支援金額は、残念ながら、2022年分の拠出金約9,000米ドルと2023年分の拠出金約3,500米ドルを上回っています。

モントリオール基金は、2024年7月にオランダで開催されるIRPA第16回国際大会に参加できるよう、30,000米ドルの支援を行う予定です。このため、今後の支援に充てられる基金が30,000米ドル未満となってしまいます。現在と同レベルの支援を継続するためには、モントリオール基金への寄付金の増額が急務となっています。

今年度、モントリオール基金へのご協力をお願いいたします。皆様のご支援は、2026年に開催されるIRPA地域大会や、2028年に開催されるIRPA第17国際大会に参加できない可能性のある人々の、今後のIRPA国際大会への参加を増やすことにつながります。支援の必要性は高まっており、寄付金の増額が急務となっています。



THE SOCIETY FOR
RADIOLOGICAL PROTECTION



IRPA16 : KEVIN NELSON (IRPA16組織委員会委員長)とのインタビュー

IRPA16の魅力とは？

IRPA国際会議は、世界中の放射線防護専門家が4年ごとに集まり、共通の問題や解決策について話し合うまたとない機会です。まさに、放射線防護会議のオリンピックです。

会議のテーマ「放射線調和」とは？

あなたにとって **"Standing United for Protection"** とは？

世界中で放射線の使用が増加するにつれ、リスクに対する統一的なアプローチの重要性が最も重要になっています。IRPA、IAEA、ICRP、NCRPなどの国際放射線防護組織では、この統一的なアプローチにおいて重要な役割を果たしています。



組織委員会のメンバーとして、IRPA16の参加者は何を楽しみにしていると思いますか？

2月5日から9日までオランダで開催されるIRPA16プログラム委員会に出席します。審査すべき演題が約800件あります。演題の質と多様性は際立っています。IRPA16に参加される方は、放射線防護の世界的な第一人者による素晴らしい講演やポスターを楽しみにしててください。また、同業者とのネットワークを広げる絶好の機会でもあります。

個人的に最も楽しみにしていることは？

私にとってIRPA16は、この会議を51年ぶりに米国で開催するための11年間の努力が報われた感慨深い大会になります。これまでIRPA国際会議に参加する機会がなかった放射線防護の専門家の方々にも、この機会にぜひ参加していただきたいと願っています。



IRPA16 : KEVIN NELSON (IRPA16組織委員会委員長)とのインタビュー

どのようなトピックが最も議論を呼ぶと思いますか？

ひいき目な言葉にはなりますが、IRPA16は誰にとっても興味深い講演やポスターがあると思います。特に、ICRPの放射線防護体系の改訂に関する一連の講演や討論は、多くの関心を集めると思います。

どのような社交イベントが企画されていますか？

オーランド地域は、IRPA16の参加者に比類ないエンターテインメントの機会を提供しています。わずか数kmの距離には、ディズニー・ワールド、ハリー・ポッターのあるユニバーサル・スタジオ、シーワールドがあります。また、テクニカルツアーとしてケネディ宇宙センターへのツアーも用意されています。会議では、催し物も計画しています。



IRPA16への参加を放射線防護関係者に呼びかけるために、何か言いたいことはありますか？

海外の同僚の皆様、ここ数年、IRPA大会担当副会長として、直接、あるいはIRPA地域大会のバーチャルで皆様とお話しさせていただく中で、友情とご厚情を賜りましたことを感謝いたします。7月にオーランドで開催されるIRPA第16回大会でお会いできることを楽しみにしています。

HPSの同業者の皆さん、これは我々の地域で開催されるIRPA国際大会に出席できる素晴らしい機会です。過去に参加したIRPA国際大会では、自分の仕事場で遭遇した興味や問題を持つ多くの同僚に会う機会がありました。今では皆、良き友人となっています。また、この国際大会をアメリカの地で再び開催するのに51年もかかりました。この機会にぜひ参加いただきたいと思います。これを逃すと、次のアメリカでの開催は、また51年後かもしれませんよ。



エジプト放射線防護ワークショップ

MOHAMED GOMAA

エジプト放射線防護ワークショップは、2023年9月19日から20日にかけて開催され、医療用及び非医療用途のための放射線職員免許に焦点が当てられました。

このワークショップはエジプト原子力庁（EAEA）の主催でカイロのナルス市で開催され、エジプトの大学の大学院生、EAEAまたはENPPAのジョイナー・スタッフ、あるいは産業企業に勤務する放射線防護担当者を中心に約40人が参加しました。

EAEA会長Amr El-El Hag Aly教授の開会承認の後、EAEA副会長Haydat Ahmed Kamal教授がワークショップの開会セッションの議長を務めました。



Haydat Kamal教授とMohamed Gomaa教授

ワークショップのハイライトは以下の通り：

- エジプトにおける放射線防護の歴史（1955-2022年）。
- 国連原子放射線の影響に関する科学委員会（UNSCEAR）の協力的役割、国際放射線防護委員会（ICRP）の勧告、国際原子力機関（IAEA）の放射線防護規制の更新における安全要件。
- IAEAの一般安全要求事項のパート1からパート7までの詳細な概要。
- 原子力・放射線規制活動(2010年)と題されたエジプト法の各章の概要と、2011年の施行規則、そして2017年における修正内容。



エジプト放射線防護ワークショップ

MOHAMED GOMAA

- この法律により、エジプト原子力放射線規制庁（The Egyptian Nuclear Radiological Regulatory Authority : ENRRA）が、職員免許を発行するエジプト唯一の所轄官庁として設立されました。

ワークショップの中心となったのは、2022年に発行されたENRRAの最新出版物「*Personnel License Regulations (PLR)*」です。この文書には、エジプト人および外国人に対する、ユーザー、医師、技術スタッフ、放射線防護担当者、放射線防護専門家の人事免許の付与および更新に関する詳細な要件が記載されています。

最後の項目は、放射線防護の知識と経験を上級専門家から新入職員に伝えることに焦点が当てられました。

ワークショップの閉会時には、参加者全員に参加証書が配布されました。EAEAメディアコンサルタントのSherif Gohary教授の協力により、いくつかの地元新聞に放射線防護ワークショップに関する詳細な記事を掲載していただくことができました。

私自身は、この分野で40年以上の経験を持つ80歳ではありますが、エジプトの放射線防護専門家の仲間入りができることをうれしく思っています。なお、私の同僚には、Gaber Hassib教授、Rifaat Shinawy教授、Mourad Aziz教授、Ahmed El-Khateeb教授らがおられます。



Mourad Aziz教授



Ahmed El-Khateeb教授



今後のイベント



RADIATION HARMONIZATION:
STANDING UNITED FOR PROTECTION

 **IRPA 16**

7-12 July, 2024 • Orlando, Florida USA
Rosen Shingle Creek

テーマは「放射線調和」：IRPA16大会は、放射線の利用が拡大し続ける中、調和の必要性が私たちの実践に不可欠な要素であり続けているという事実注意到喚起することを目的としています。当セッションでは、規制プロセスに対する各国のアプローチの違いや、防護コミュニティ内の違いに関する講演や議論を歓迎します。これによって、ICRPが現在進めている放射線防護に関する一般勧告の次回改訂に向けた検討プロセスを支援するための成功例や課題を明らかにすることができます。また、ICRPは現在、放射線防護に関する勧告の見直しを行っており、IRPA16でも議論される予定です。

放射線防護の基礎から実践の改善まで、幅広いトピックが期待できます。講演は、現代的で魅力的、かつ双方向的な形式で行われ、最新情報を提供すると共に、技術的な貢献と、参加者全員が議論に積極的に参加する機会を提供します。大会主催者およびホストは、若手の科学者や専門家の参加をお待ちしております。



ニュースをお寄せください



共有したいニュースがありますか？cop@irpa.net までお送りください。IRPA NewsとIRPA Bulletinでご紹介させていただきます。会報の記事は通常200～300字と画像となります。

ソサエティ・スポットライトでは、関連学会からの最新情報を随時募集しています。あなたの学会の近況をお知らせください。会合、会議、一般的なイベント、または良いニュース等をお待ちしております。

IRPA出版委員会

IRPAコミュニケーション・オフィサー：Dave Niven

会報編集部：Dave Niven

関連学会リエゾン：Michèle Légaré

ウェブサイトの管理者：Dave Niven & Chris Malcolmson;

ソーシャルメディア・マネージャー：Sven Nagels & Chris Malcolmson;

メディアレビュアー：Sven Nagels, Young-Khi Lim & 藤田博喜;

プロシーディングス・アドバイザー：荻野晴之

IRPA 16まで待てないという方は、[4月24日に開催される第4回IRPAウェビナー](#)にご登録ください。このウェビナーでは、IRPAのタスクグループ「国民の理解」、「若手世代ネットワーク（YGN）」のニュースや、国際大会に関する最新情報をお伝えします。

2024IRPA理事会メンバーの選出

IRPA総会（GA）は、IRPA国際大会期間中の2024年7月10日（水）午後3時30分から午後7時（米国フロリダ州オーランド、現地時間）まで、米国フロリダ州オーランドのローゼン・シングル・クリーク・カンファレンス・ホテルで開催されます。この総会において、IRPAの理事会メンバーの選挙が行われます。IRPAは、[IRPA規則附属書B「理事会への推薦候補者提出手続き」](#)の要件を満たす5名の推薦を受けております。

すべての候補者のプロフィールや選挙に関するその他の情報は、[IRPAのウェブサイト](#)でご覧いただけます。

